

スピリチュアル物語

70話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

トランスマリ奥特内スターボックス(要予約):1時間 \$60

メール相談:(要予約):majyotomoe@gmail.com \$16/1件(Paypal・Zelle)



「自分と他者との間に
ある目には見えないバウン
ダリーには、相手との関
係性に比例した身体的
距離であるパーソナル
スペースの他に、心の距
離もある」マジヨリアル
がまとめると、マグワー
トは更に続けた。「人間
誰しも赤ん坊の頃には
バウンダリーは明確で
はなく、成長に伴って
“自我”というものが芽
生え、自分と他者という
存在の区別に意識が向
くと共に、バウンダリー
が形成されるものなん
じゃ」「つまり自我の発達
によりバウンダリーが出
来る「ウィザットが珍し
く理解を示すと」「じゃあ
バウンダリーとは自分
と他者とを隔てる壁って

いうことですか?」負け
じと質問するマジヨリア
ル。「それを自分と他者
とを隔てる壁と捉える
か、お互いの存在を尊重
し健全な相互理解をす
る為のインターフェイス
と捉えるかで、人間関係
は全く違うものとなる。
壁と捉える者は、最も近
い存在である親やそれ
に相応する者から自我
を抑え付けられた環境
に育った可能性が考えら
れ、他者との心の距離の
取り方に支障が出易い
傾向にある。人は自他共
に、自我の存在を認める
ことで、お互いのバウン
ダリーを尊重し合うこ
とが出来るとは、最
初は何も独りでは出来
ない赤ん坊だった我が子

の成長と共に芽生えた
自我を認めること、つま
り子供が精神的に独り
立ちし、“他者”という存
在になるという変化を
受け入れられない親も
多い。しかし、それは親
が悪いという意味では
なく、親とて完璧ではな
い魂の学び手でもある
ので、そういう親子には
深いバウンダリーの学び
がある、という意味じゃ」



★これまでのお話(1~69話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

www.majotomoe.com 10月12日号につづく